

臨床病理学

責任者・コーディネーター	病理学講座分子診断病理学分野 菅井 有 教授		
担当講座・学科(分野)	病理学講座分子診断病理学分野、病理学講座先進機能病理学分野、病理学講座病理病態学分野、腫瘍生物学研究部門		
担当教員	菅井 有 教授、澤井 高志 教授、増田 友之 教授、前沢 千早 教授、佐藤 孝 准教授、及川 浩樹 講師、上杉 憲幸 講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 18 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

基本理念：日常診療における病理診断は単なる形態診断ではなく、臨床的事項、検査所見および肉眼所見の適切な理解の上に成り立っており、これらの情報を総合して診断が行われている。加えて近年では分子生物学的な補助診断も不可欠であり、それらに関する知識も必要となってきた。各臓器における代表的疾患の臨床病理学的な診断を学習するだけでなく、診断に至るアプローチの仕方を学び、実際の診療における病理診断の臨床的重要性を理解する。

・一般目標（GIO）

1) 実際の医療現場における病理診断学の重要性を理解する。2) 各臓器の病理診断学に必要な知識を習得する。3) 病理診断に必要な各種補助診断の有用性を学ぶ。4) 代表的疾患における診断のアプローチの仕方を学ぶ。

・到達目標（SBO）

1. 代表的疾患の肉眼像の臨床病理学的意義を説明することができる。
2. 代表的疾患の組織像の臨床病理学的意義を説明することができる。
3. 代表的疾患の鑑別診断について述べるすることができる。
4. 代表的疾患の細胞像を説明することができる。
5. 以下の病理診断学の補助診断について説明することができる。
 - 5-1. 代表的疾患における代表的な特殊染色の応用例を述べるすることができる。
 - 5-2. 免疫染色の原理を説明することができる。
 - 5-3. 免疫染色の代表的疾患における応用例を述べるすることができる。
 - 5-4. 電子顕微鏡の代表的疾患における応用例を述べるすることができる。

- 5-4. 代表的な遺伝子解析技術の原理と病理診断に関する応用例を述べることができる (PCR、PCR-SSCP、直接シーケンス法)。
- 5-5. 代表的な細胞遺伝学の解析手法の原理と病理診断に関する応用例を述べることができる (FISH法, CGH法など)。
- 5-6. フローサイトメトリー (FCM) の原理と病理診断に関する応用例を述べることができる。
6. 代表的疾患について、病理診断のアプローチの仕方を説明できる。
7. 生検診断に基づいた治療法の選択について述べるができる。
8. 生検の適応と禁忌を述べることができる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/16	火	3	分子診断病理学分野	菅井 有 教授	診断病理学総論-1 診断病理学の基礎
10/16	火	4	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	診断病理学総論-2 分子生物学の病理診断における役割
10/23	火	3	分子診断病理学分野	菅井 有 教授	消化管生検
10/23	火	4	病理病態学分野	増田 友之 教授	肝生検
11/6	火	3	分子診断病理学分野	上杉 憲幸 講師	胆道・膵生検
11/6	火	4	先進機能病理学分野	澤井 高志 教授	中枢神経および関節生検
11/13	火	3	分子診断病理学分野	菅井 有 教授	婦人科生検
11/13	火	4	病理病態学分野	及川 浩樹 講師	腎・泌尿器生検
11/20	火	3	先進機能病理学分野	澤井 高志 教授	肺・縦隔生検
11/20	火	4	分子診断病理学分野	菅井 有 教授	診断病理学総論-3 診断病理学の最近の進歩

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
11/22	木	3	分子診断病理学分野	上杉 憲幸 講師	乳腺生検
11/22	木	4	病理病態学分野	佐藤 孝 准教授	リンパ節・骨髄生検

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	外科病理学 4版	向井清 他編	文光堂	2006
推	消化管病理標本の読み方 改訂2版	中村眞一 編著	日本メディカルセンター	2008
推	カラールービン病理学：臨床医学への基盤	E. ルービン編	西村書店	2007
推	ロビンス基礎病理学 7版	V. Kumar 他編	広川書店	2004

・成績評価方法

統合試験の規定に準ずる。

・特記事項・その他

各臓器の代表的疾患について系統講義の形式で行う。組織・細胞所見および手術材料の肉眼像のみならず、鑑別診断や補助診断についても説明する。また、病理診断が治療効果の判定にも有用であることも述べる。

1. 診断病理学総論-1 診断病理学の基礎
2. 診断病理学総論-2 分子生物学の病理診断における役割
3. 診断病理学総論-3 診断病理学の最近の進歩
4. 診断病理学各論
 - 4-1. 消化管生検（腹水細胞診も含む）：胃癌、大腸癌および腺腫、GIST、胃 MALT リンパ腫、炎症性腸疾患等

- 4-2. 胆道・膵生検（腹水細胞診も含む）：胆道癌、膵癌、膵 IPMT と MCT、膵腫瘤形成疾患の鑑別診断
- 4-3. 肝生検：肝炎（急性、慢性）、肝硬変、肝癌、腫瘤形成性疾患（腺腫、FNH など）の鑑別診断
- 4-4. 肺・縦隔生検（胸水細胞診も含む）：肺癌、間質性肺炎、縦隔腫瘍等
- 4-5. 関節生検：慢性関節リウマチを含む関節炎、色素絨毛結節性滑膜炎、腫瘍性疾患等
- 4-6. 婦人科生検（腹水細胞診も含む）：子宮頸癌、内膜癌、内膜増殖症、卵巣腫瘍、絨毛性疾患等
- 4-7. 泌尿器科生検（尿細胞診も含む）：膀胱癌（尿路癌）、腎癌、前立腺癌等
- 4-8. 中枢神経生検：神経膠腫瘍、髄膜腫等
- 4-9. 腎生検：原発性および続発性糸球体疾患、間質性腎炎等
- 4-10. リンパ節、骨髄生検：悪性リンパ腫、肉芽腫形成性疾患、白血病、癌の骨髄転移等
- 4-11. 乳腺・内分泌生検（細胞診も含む）：乳腺症、乳腺腫瘍、甲状腺腫瘍、副腎腫瘍、副甲状腺疾患、下垂体腺腫等

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	外付け HDD	1	講義資料用データ保存
	ノートパソコン	1	講義プレゼンテーション